

様式(10)

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲保 第 39 号 乙保	氏名	加根 千賀子
審査委員	主査 森 健治 副査 岩本 里織 副査 谷岡 哲也		

題目

Clinical Factors Influencing Quality of Life in Anorexia Nervosa Patients
神経性やせ症患者のQOLに影響を与える臨床的要因

著者

Chikako Kane, Masahito Tomotake, Sayo Hamatani, Shinichi Chiba, Tetsuro Ohmori
2018年1月発行 Open Journal of Psychiatry, Vol.8, No.1, 50~60ページに掲載済

要旨

本研究は、Anorexia Nervosa (AN) 患者の Quality of Life (QOL) と関連する臨床的要因を解明することを目的として行われた。徳島大学病院精神科で治療を受けている女性の AN 患者 20 人 (median age=30.0 歳、QD=6.8) と健常コントロール (HC) 40 人 (median age=30.0 歳、QD=8.6) が本研究に参加した。臨床評価は 36-Item Short Form Health Survey (SF-36)、Multidimensional Scale of Perceived Social Support (MSPSS)、The Structured Interview Guide for the Hamilton Depression Rating Scale (SIGH-D)、Eating Disorder Inventory-2 (EDI-2) を用いて行った。本研究は徳島大学病院倫理審査委員会の承認を得て実施された。結果は以下の通りであった。SF-36 の Mental Component Summary (MCS) と Role/Social Component Summary (RCS) のスコア、MSPSS のスコアは、AN 群の方が HC 群よりも有意に低かった。SIGH-D スコアは AN 群が HC 群より有意に高かった。AN 群では、SIGH-D スコアと EDI-2 の Interoceptive Confusion、Interpersonal Difficulty、Negative Self-image のスコアは、MCS と有意な負の相関を認め、Interoceptive Confusion のスコアは RCS と有意な負の相関を認めた。重回帰分析の結果から、SIGH-D スコアは MCS の予測因子であり、Interoceptive Confusion は RCS の予測因子であることが明らかとなった。以上の結果は、抑うつ症状と自己の情緒に対する意識やコントロール感の欠如が、AN 患者の低い QOL と関連していることを示しており、本研究で得られた知見が、今後の AN 患者の治療の取り組みに与える影響は大きく、有意義な内容である。その社会的意義は大きく、博士の学位授与に値すると判定した。